

感染症に気をつけよう!

2015年【2月号】



横浜市内の感染症 流行状況

感染症	流行状況	説明	【 】は解説付き既刊号 ← クリック
インフルエンザ	 流行  増加	警報が昨年より4週間早く出ました。年明け後に減りましたが、 <u>再び増加</u> していて、引き続き注意が必要です。【1月号】	
伝染性紅斑 (リンゴ病)	 流行  横ばい	万一、妊婦が感染したら、医師に相談し胎児の状態をよく調べるのが重要です。 <u>予防には手洗い</u> が大切です。【6月号】	

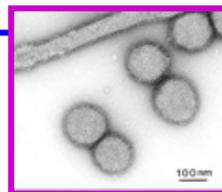
今、気をつけたい感染症 インフルエンザ



- 地図の色が濃い地域ほど、患者が多くなっています。市内のどの区でも、まだ流行が続いていることが分かります。

- 流行は子どもを中心に再び広がっていて、学級閉鎖も増加しています。脳炎など重症例の報告も増えています。

- もし症状が出てしまったら他の人にうつさないよう、咳エチケットを守り早目に受診しましょう。

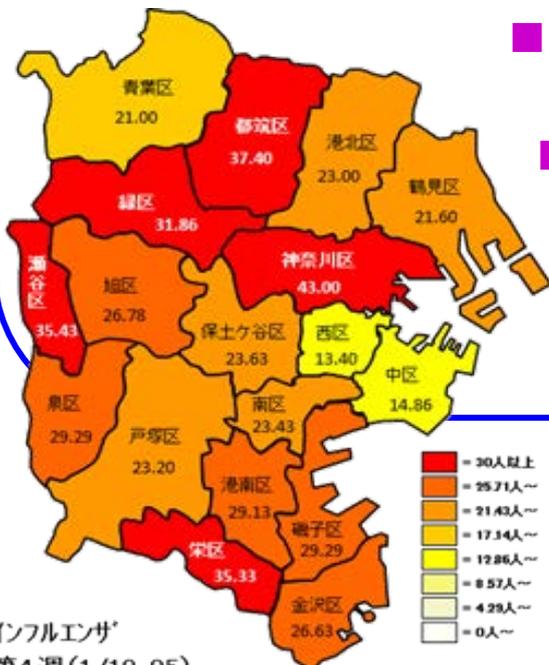


国立感染症研究所 HP より



- 抗インフルエンザ薬を使って熱が下がっても、他の人にうつす可能性があります。

- 学校等については、「症状が出てから5日間が過ぎ、かつ、熱が下がった後2日間(幼児は3日間)は休むこと」とされています。かかりつけ医に相談しましょう。



横浜市衛生研究所
 感染症・疫学情報課
 【横浜市感染症情報センター】